

2008年12月19日

大学における「教養」教育の可能性

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

小林傳司

1. 自己紹介

2. 議論の前提

「教養」の定義問題に深入りしない

教養＝教育マイナス選抜：暫定的定義

大学：保守的組織　＜不易と流行＞

マス段階からユニバーサル段階

西洋古典を中心とした読書を通じての人格形成としての「教養主義」1970年頃に崩壊

知的エリートの勲章としての「教養」の崩壊

都市と農村の格差の縮小

刻苦勉励主義の衰退

ビジネスのテクノクラート化→教養知から専門知

3. 「教養」なるものの可能性

教養：文化の教育

適応：実用主義

超越：理想主義

自省：懐疑の精神

＜今後の検討のためのいくつかの問題提起：網羅的ではない＞

1・2年あるいは学部：教養教育　／　大学院：専門教育　という分業を疑う

昼に強く夜に弱い日本の専門家

大学教育の幹としての「教養」教育

表現する言葉がない：「新教養」　学部から大学院まで必要

市民性：アメリカのリベラルアーツ　ヨーロッパの後期中等教育

政治的判断力、社交性

視野の拡大：他者の声を聞く反省能力（他の分野、大学の外の声）

科学技術リテラシーそして社会リテラシー

科学教育だけでよいか（技術は？）

専門基礎科目ではない科学教育

科学技術の社会的意味を考える教育の必要性（STS 教育）

情報・メディアリテラシー

新聞を読まない知性の可能性

マンガを読む知性の可能性

ネットを使いこなす知性

知識だけではなく、スキルあるいはコンピテンス

マネジメント力（cf.社会人基礎力）

知へのユニバーサルアクセス（生涯学習社会）

Teaching から learning へ

4. 課題

専門教育との関係

新「教養」の威信

担い手の問題（人と組織）

5. 大阪大学でのアンケートの紹介

主な参考文献

- 潮木守一 『フンボルト理念の終焉？ 現代大学の新次元』 東信堂
- 潮木守一 『世界の大学危機』 中公新書
- 荻部直 『移りゆく教養』 NTT 出版
- 佐藤卓己 『テレビ的教養』 NTT 出版
- 佐藤卓己 『輿論と世論』 新潮社
- 筒井清忠 『日本型「教養」の運命』 岩波書店
- 筒井清忠 『新しい教養を求めて』 中央公論社
- 竹内洋 『学問の下流化』 中央公論新社
- 竹内洋 『教養主義の没落』 中公新書
- 村上陽一郎 『やりなおし教養講座』 NTT 出版
- 阿部謹也 『「教養」とは何か』 講談社現代新書
- 沼田裕之他 『教養の復権』 東信堂
- 小林信一他 『社会技術概論』 放送大学教育振興会